2021年11月8日(月) 山陽新聞 [第2全県]

脳卒中 予防法解説

協会県支部 公開講座を配信

日本脳卒中協会県支部は、脳卒中をテーマにした公開講座をオンラインで配信している。

動画6本(6～19分)で構成しており、川崎医科大、岡山赤十字病院の医師6人が講師を務める。

「危険因子と予防」では、川崎医科大付属病院の大山直紀・脳卒中科副部長が、脳卒中には脳の血管が詰まる「脳梗塞」と、血管が破れる「脳出血」「くも膜下出血」があることを説明。「高血圧は全ての症状に関わっている。塩分を控えることが重要」と解説するほか、1日30分以上の運動や禁煙といった予防法も紹介している。

オンラインで配信している脳卒中講座の一場面

他の動画では、血管に詰まった血栓を薬で溶かす脳梗塞の治療法や、県内では年間5千～6千人が脳卒中を発症し、うち脳梗塞が7割を占めることなどを伝えている。

同協会が本年度定めた「脳卒中月間」(10月)の関連行事として企画。いずれの動画も年末まで配信する。

(高橋由大)